

# Nバス及びおでかけなんじいの利用状況について

令和5年1月

南 城 市

# 1 概況

- Nバス及びおでかけなんじいの利用者数は、新型コロナウイルス感染症の流行状況によって大きく左右されており、令和3年6月～8月は両方をあわせた利用者数が300人/日前後でしたが、流行が落ちつき、行動制限のなくなった令和4年3月以降は、400～450人/日前後にまで利用者数が回復しています。
- 特に、令和4年6月以降は利用者数が450人/日前後と多くなっており、新型コロナウイルスの流行の落ち着きとともに、おでかけなんじい及びNバスの利用者数が高い水準で安定しています。
- また、市内の公共交通利用者数の推移をみると、再編前は260人/日前後で推移していましたが、再編後は新型コロナの影響がありながらも、300～370人/日と100人/日前後増加し、直近の令和4年は416人/日まで増加しています。

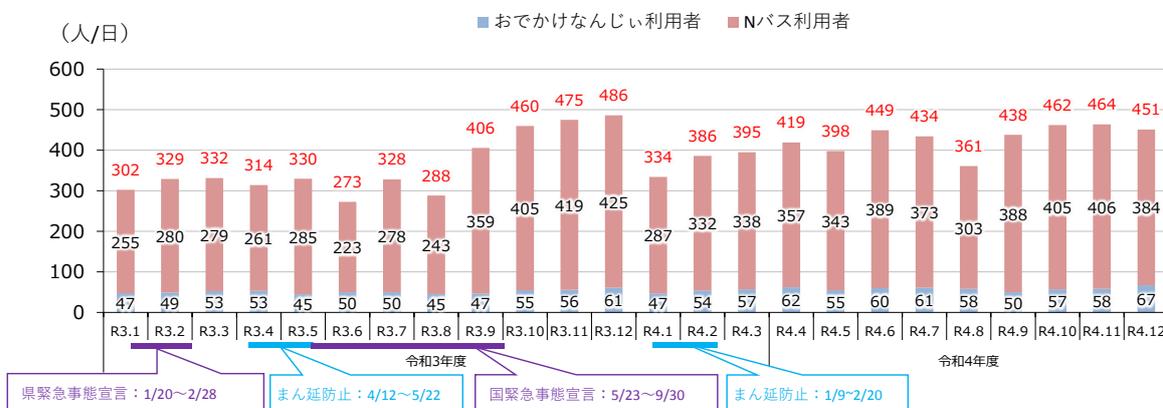
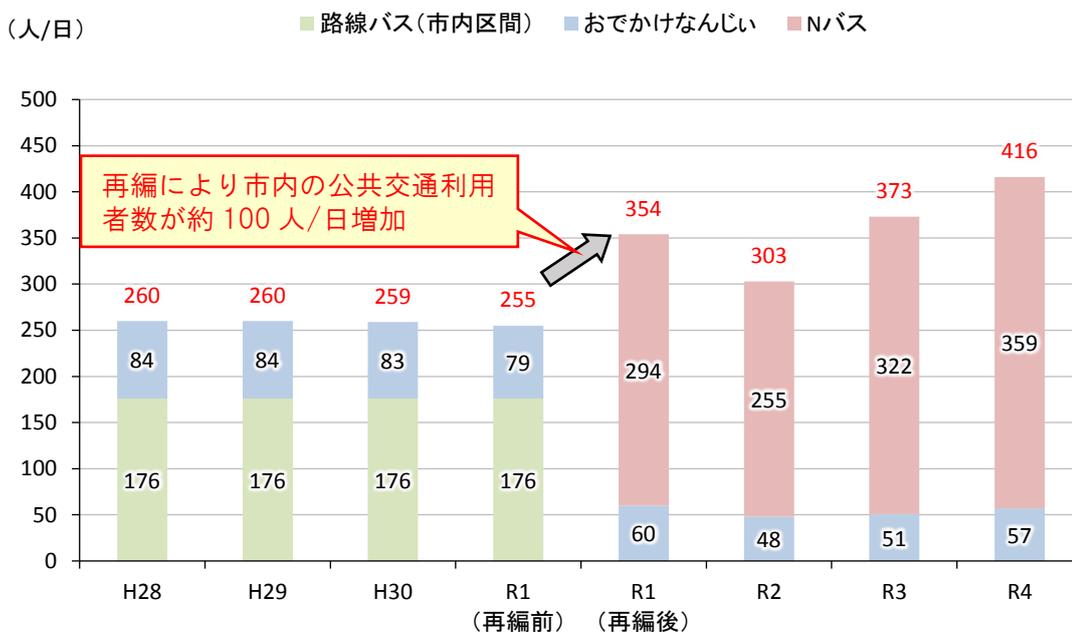


図-1.Nバス及びおでかけなんじいの利用状況の推移



※路線バスの利用者数は、H25 沖縄県調査より、市内区間のみの利用者数を整理  
 ※R1(再編後)以降のデータには、路線バス利用者数は含まれていない。

図-2.市内の公共交通利用者数の推移

## 2 Nバスの利用状況

### 2.1 Nバスの運行状況

- 令和4年4月1日の運行見直しにより、A3系統がB1系統に統合、B3系統を新設、E、H系統が廃止となりました。
- Nバスの運行便数は平日67便から70便へ3便増便、休日は54便から55便に1便増便されており、系統が集約され、便数が増加しています。

表 1.Nバスの運行便数

系統	R3.3 以前		R3.4 見直し		増減		備考
	平日	休日	平日	休日	平日	休日	
A1/A2	21	21	22	20	+1	-1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・急行便あり</li> <li>・平日早朝便追加、夜間便廃止</li> <li>・休日夜間便廃止</li> </ul>
A3	1	0	0	0	-1	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・B1系統に統合</li> </ul>
B1/B2	13	13	20	20	+7	+7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・A3系統を統合</li> <li>・日中を通じて、双方向化</li> <li>・急行便あり</li> </ul>
B3	0	0	2	0	+2	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幹線バスの廃止代替</li> </ul>
C1/C2	18	18	16	15	-2	-3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平日、休日夜間便廃止</li> <li>・向陽高校周辺でルート変更</li> </ul>
D1	3	0	2	0	-1	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・早朝便廃止</li> <li>・学校の長期休暇に関わらず平日運行</li> </ul>
D2	5	0	4	0	-1	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夜間便廃止</li> <li>・学校の長期休暇に関わらず平日運行</li> </ul>
E	1	1	0	0	-1	-1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・系統廃止</li> </ul>
F1	1	1	1	0	0	-1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・休日廃止</li> </ul>
F2	1	0	1	0	0	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・玉城幼稚園周辺でルート変更</li> <li>・学校の長期休暇に関わらず平日運行</li> </ul>
F3	1	0	1	0	0	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・向陽高校周辺でルート変更</li> <li>・学校の長期休暇に関わらず平日運行</li> </ul>
G	1	0	1	0	0	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大里東地区でルート変更</li> <li>・学校の長期休暇に関わらず平日運行</li> </ul>
H	1	0	0	0	-1	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・系統廃止</li> </ul>
計	67	54	70	55	+3	+1	

## 2.2 利用者数の推移

- Nバスの利用者数は、令和3年の8月までは1日当たり300人/日以下でしたが、令和3年9月以降利用者数が増加し、令和3年の12月には425人/日にまで達しています。
- Nバス利用券の配布もあり、令和3年10月から12月は再編直後の377人を上回る利用者数で推移していましたが、令和4年1月にまん延防止等重点措置が適用され、利用者数が300人/日前後と令和3年の10月から12月に比べ、100人/日前後と大きく利用者数が減少しています。
- Nバスの運行見直しを行った令和4年4月以降は、利用者数が350人/日前後と、増加傾向で安定してきており、令和4年の10月、11月は、利用券を配布していた前年の同じ時期に迫る利用者数となっています。

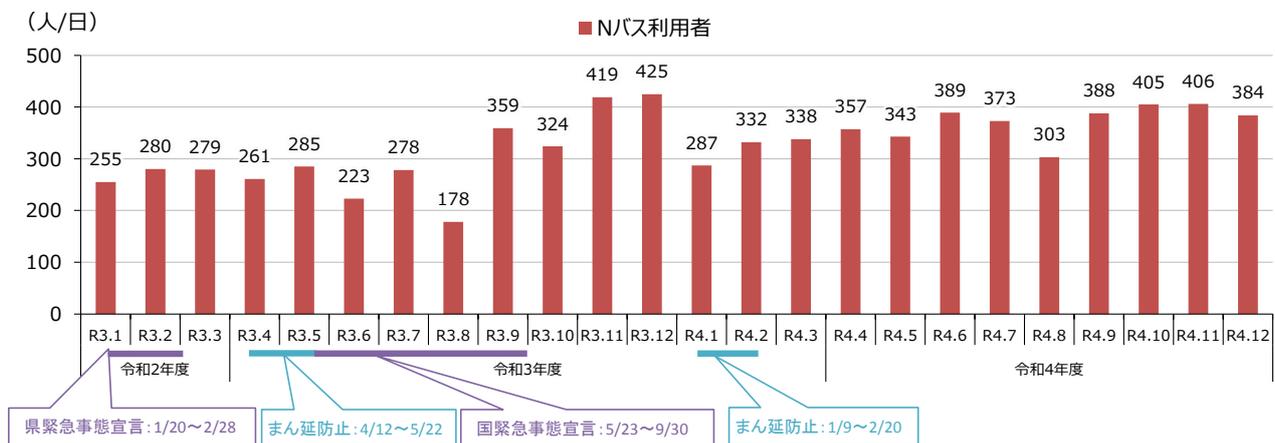


図-3.Nバスの利用者数の推移

## 2.3 運賃区分別利用者数の推移

- Nバスの運賃区分別の利用者数をみると、令和4年12月においては、「一般」が33%と最も多く、次いで、「高校生」と「小学生」が15%、「中学生」14%の順に多くなっています。なお、「現金」での支払いは、支払方法の都合により一般、高校生、中学生、小学生の区別が不明です。
- 運賃区分別の利用者数の推移は、新型コロナの影響に応じて増減しています。夏休み期間中の8月は、高校生、中学生、小学生の利用が少なくなっています。

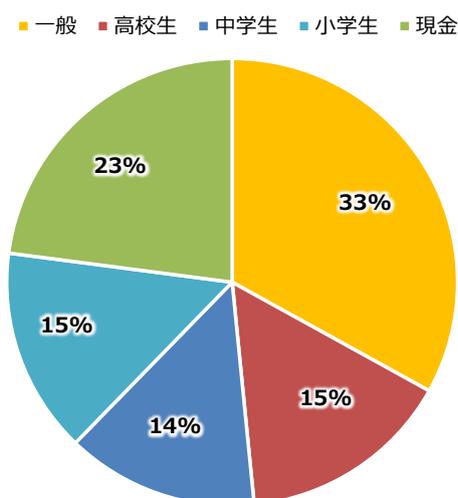


図-4.Nバスの運賃区分別の利用者数(令和4年12月)

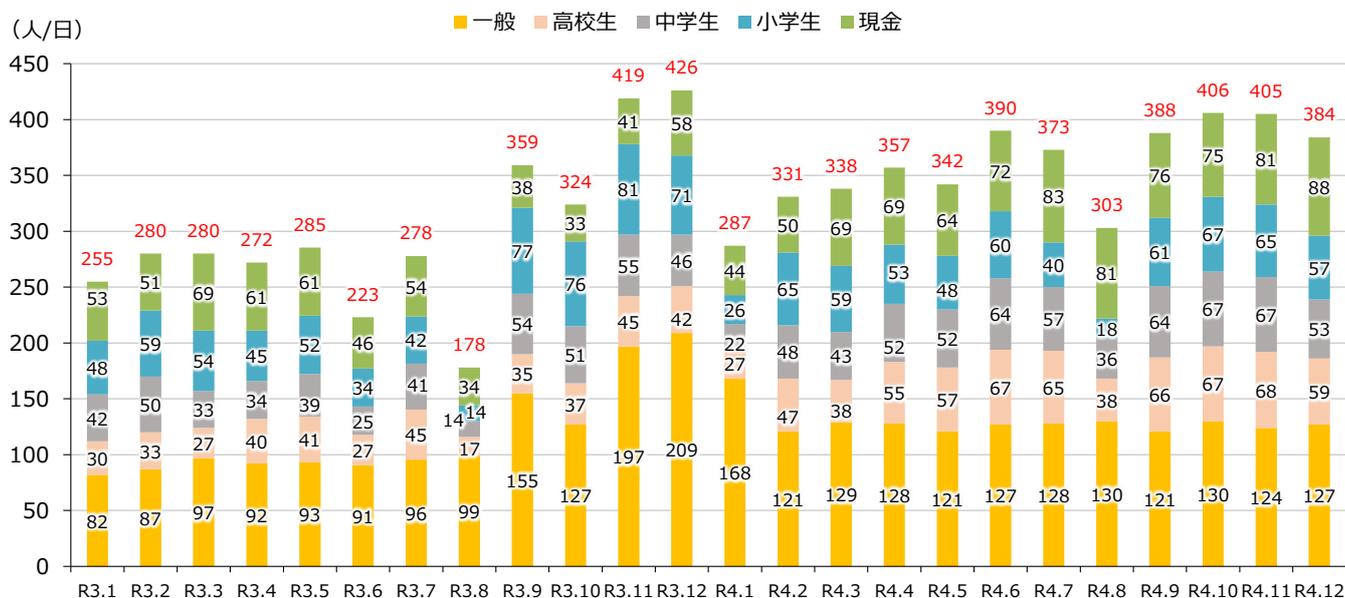


図-5.Nバスの運賃区分別の利用者数の推移

## 2.4 券種別利用者数の推移

- Nバスの券種別の利用者数をみてみると、令和4年12月においては、「回数券」が51%と最も多く、次いで、「OKICA」25%、「現金」23%の順に多くなっています。
- さらに、年代別に運賃区分別券種別にみてみると、年代が若いほど、「回数券」の利用が多く、年代があがるにつれ「OKICA」の割合が高くなっています。「回数券」の利用割合は、小学生の86%に対し、一般は56%と小学生が30ポイント上回っています。
- 令和3年10月にOKICAが導入され、導入直後は約20人/日の利用者で推移していましたが、Nバス利用券の利用期間が終了した令和4年2月以降、OKICAの利用が増えており、令和4年9月以降は約100人/日の利用者数で推移しています。

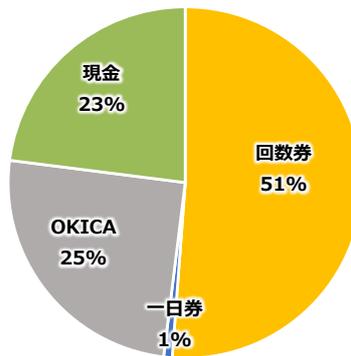


図-6.Nバスの券種別の利用者数(令和4年12月)

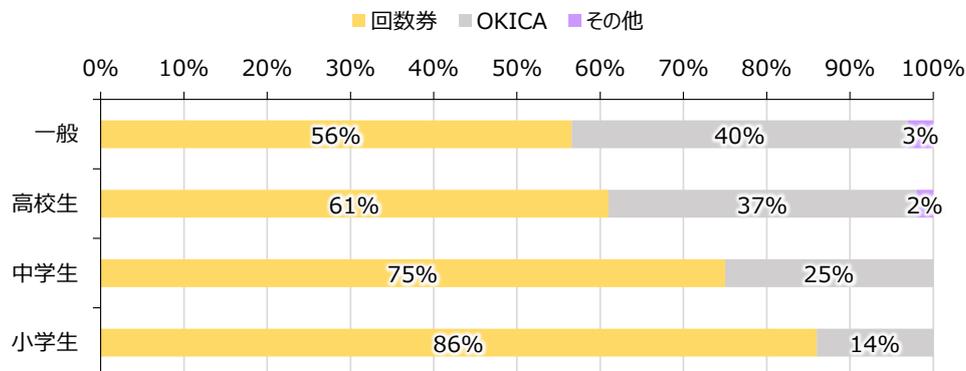


図-7.Nバスの運賃区分別券種別の利用者数(令和4年12月)

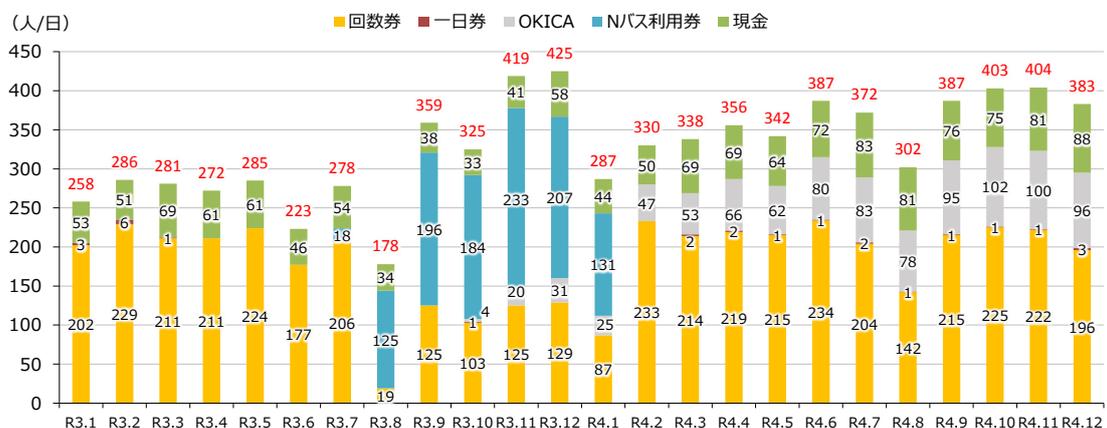


図-8.Nバスの券種別利用者の推移

※OKICAはR3.10月から導入

## 2.5 曜日別利用者数の推移

- 曜日別の利用者数は、令和3年8月までの平日は250～370人/日前後、土曜日は150～220人/日、日祝日は110～190人/日が利用していました。
- 令和3年9月以降は、利用券を配布した影響で、すべての曜日で利用者が増加しており、平日は430～500人/日、土曜日は220～250人/日、日祝日は190～260人/日が利用していました。
- Nバスのダイヤ改正を行った令和4年4月以降は、夏休み期間中の8月以外は、平日が440～500人/日、土曜日が190人～250人/日、日祝日が170人～220人/日と、利用者数が増加傾向で安定してきています。しかし、平日に比べ土曜日、日祝日の利用が半分以下の状態は変わらずに続いています。

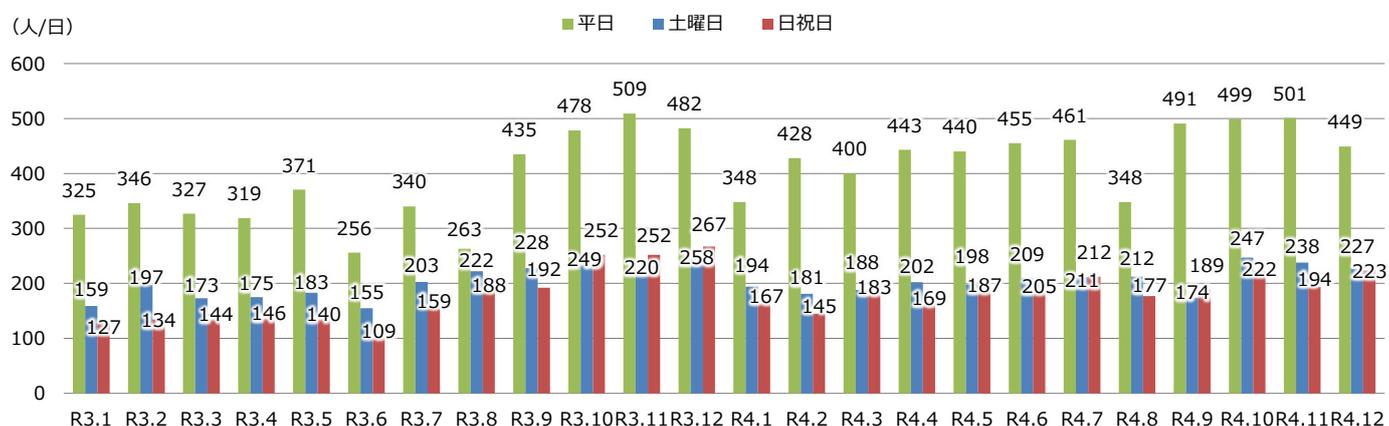


図-9.曜日別利用者数の推移

### 3 おでかけなんじいの運行・利用状況

#### 3.1 運行形態

- 令和元年10月の再編以降、おでかけなんじいの運行エリアは南城市内のみとなり、また、運賃は75歳未満が500円、75歳以上が200円になっており、再編後は回数券が廃止されています。
- おでかけなんじいには減便、増便等の基準を設定していますが、令和2年度以降は、新型コロナウイルス感染症の影響により利用者数が大幅に減少しているため、基準を適用せず、再編後の運行計画をそのまま継続しています。

表 2.現在の「おでかけなんじい」の運行形態

項目	内容	備考
名称	おでかけなんじい	
デマンドバスの運行範囲	久高島を除く南城市全域	再編前は向陽高校まで運行
利用対象	南城市を訪れる観光客及び南城市民 (年齢制限なし)	
利用料金	75歳未満は一人一律、1回500円 75歳以上は一人一律、1回200円 (未就学児は無料) ※回数券は廃止	再編前は一人1回300円(未就学児無料)、回数券あり
運行形態	ドア to ドア方式の区域運行 (フルデマンド)	
運行曜日	平日・休日(土日祝)の毎日 ※12/31～1/3は除く	
運行時間帯・運行便数	●8～20時(8時台～19時台の1時間ごとに運行) ●平日9時台～18時台、土曜日の11～15時台は3台/時運行 ●その他の時間帯は2台/時運行	再編前は、土曜日16時台は3台/時で運行
運行車両台数	最大3台(5人乗り車両)	令和元年11月以前は10人乗り
利用方法	観光客は登録不要。南城市民は登録制で、利用したい便の30分前までに電話にて予約。ただし、8時台は前日までの予約が必要。	

表 3.「おでかけなんじい」の運行台数

曜日	時間帯											
	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	19時
平日	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2
土曜日	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
日祝日	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2



### 3.2 運行便数

- 新型コロナウイルス感染症の影響で、令和3年度は1日当たりの運行便数が23~27便/日と変動がありましたが、令和4年2月以降は26~27便/日で落ち着いてきています。

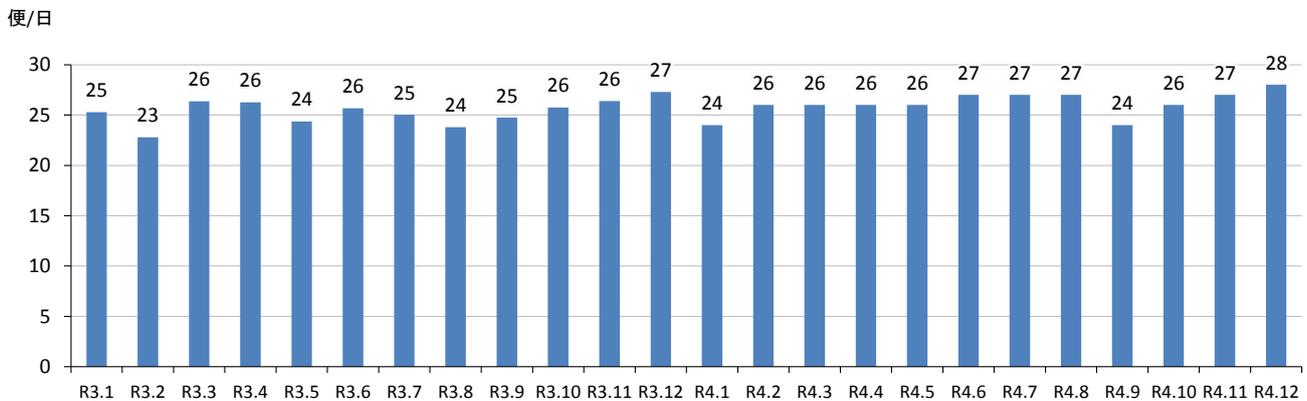


図-10.「おでかけなんじい」の運行便数の推移

### 3.3 利用者数

- 新型コロナ禍の影響で、1日当たりの平均利用者数は、45~67人/日と変動が大きく、まん延防止等重点措置、緊急事態宣言発令中の利用者数は50人/日以下となっています。
- 緊急事態宣言が解除された令和3年10月以降は利用者数は増加傾向で推移し、直近の令和4年12月の利用者数はコロナ禍以降最多の67人/日に達しました。

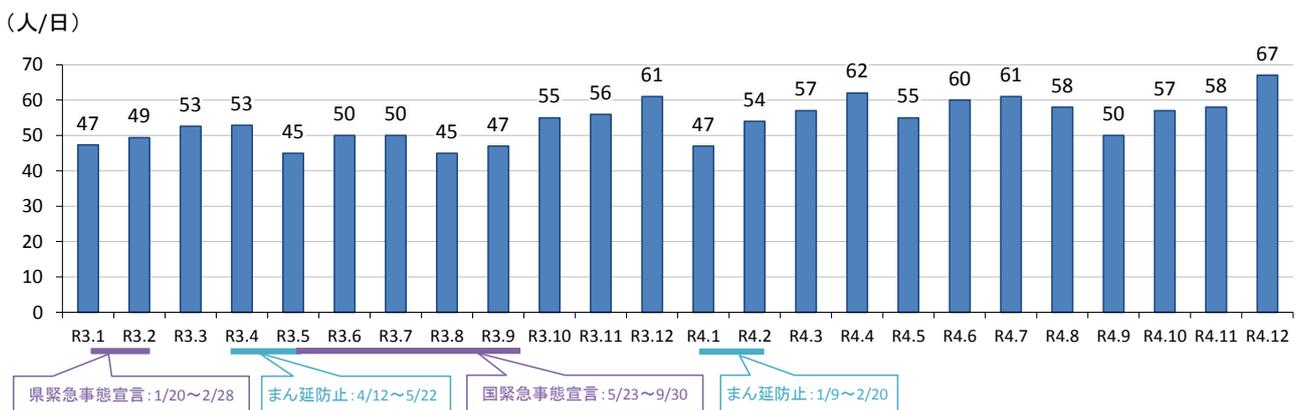


図-11.「おでかけなんじい」の利用者数の推移

### 3.4 曜日別の利用状況

●利用者数が最も多い令和4年12月の状況を見てみると、平日の73.7人/日に対し、土曜日は55.8人/日、日祝日は45.3人/日と、土曜日、日祝日は平日に比べ15~25人/日以上利用者数が少なくなっています。

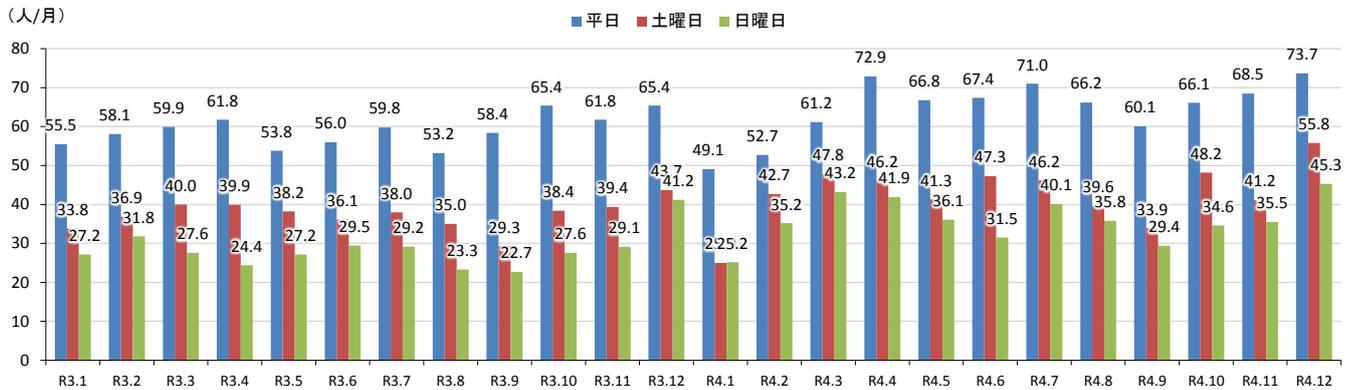


図-12.曜日別の「おでかけなんじい」の利用者数

### 3.5 曜日別時間帯別の利用状況

●平日は、10時台の8.1人/時をピークに、13時台は一時的に利用者数が減少するものの、9時台から16時台において5.0人/日以上が利用しています。  
 ●日祝日の利用が少なく、ピークの11時台においても4.7人/時にとどまっており、8時台及び17時台以降は、3.0人/時を下回っています。  
 ●なお、新型コロナのため今年度の運行計画に増減便等の基準は適用していませんが、廃止の基準となる利用者数が0.5人/時を下回っている曜日はありませんでした。

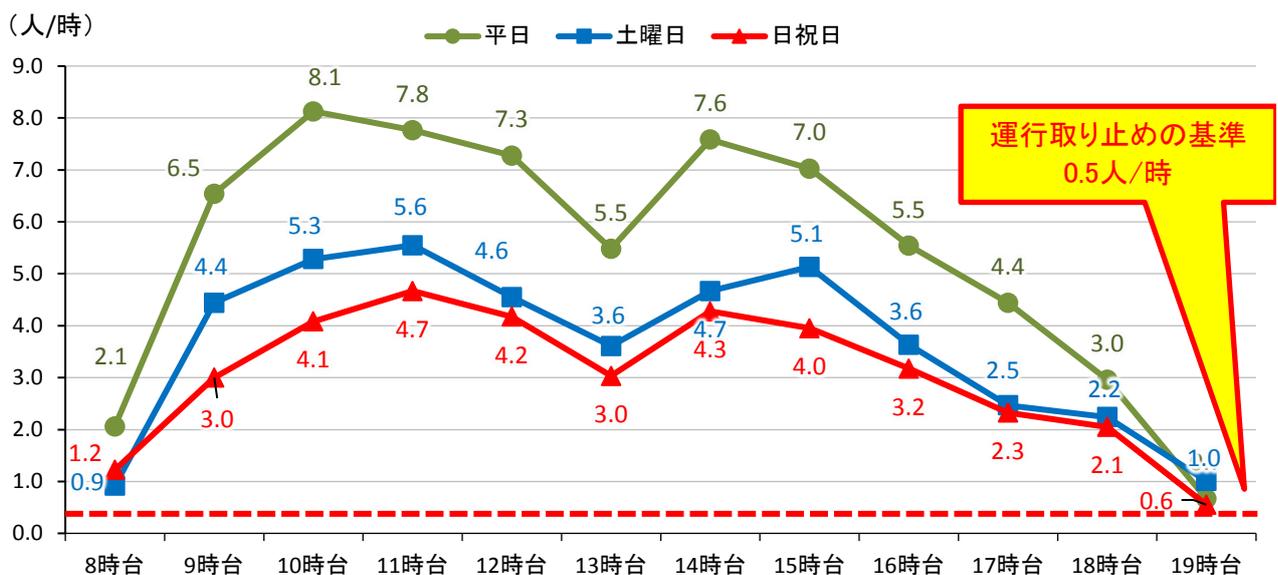


図-13.曜日別時間帯別の利用状況

### 3.6 性別の構成

- 利用者の男女比は概ね 3 : 7 となっています。
- 利用者の男女比の推移に大きな変動はみられません。

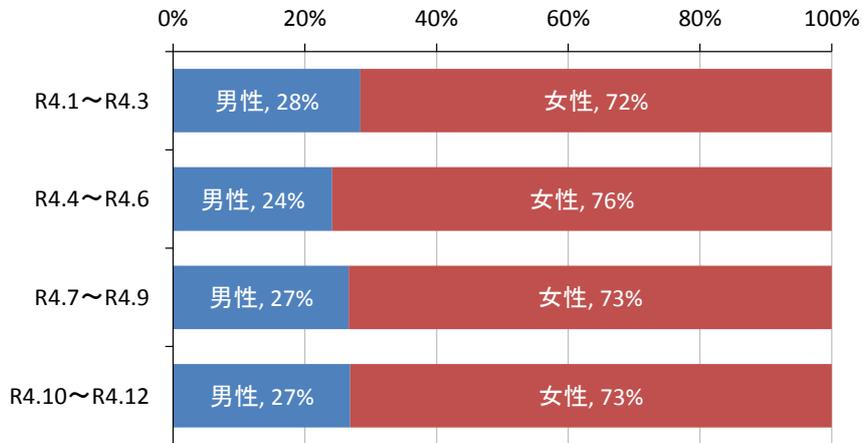


図-14.利用者の性別の推移

### 3.7 年齢構成

- 令和 4 年 12 月における利用者の年齢構成は、「85 歳～」が 30%、「80～84 歳」が 27%、「75～79 歳」が 22%と高齢者の利用が多く、75 歳以上が全体の 79%を占めています。
- 年齢構成の推移をみてみると、各期間共に大きな変化はありませんが、令和 4 年 7 月以降は「65～74 歳」の割合が他の期間に比べ増加しています。

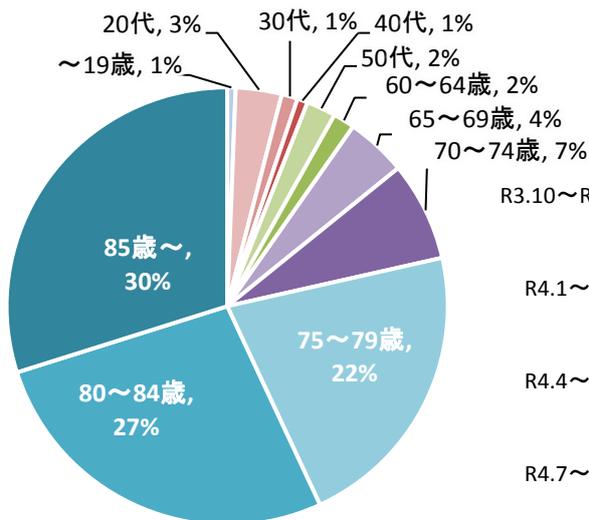


図-15.利用者の年代(R4.12)

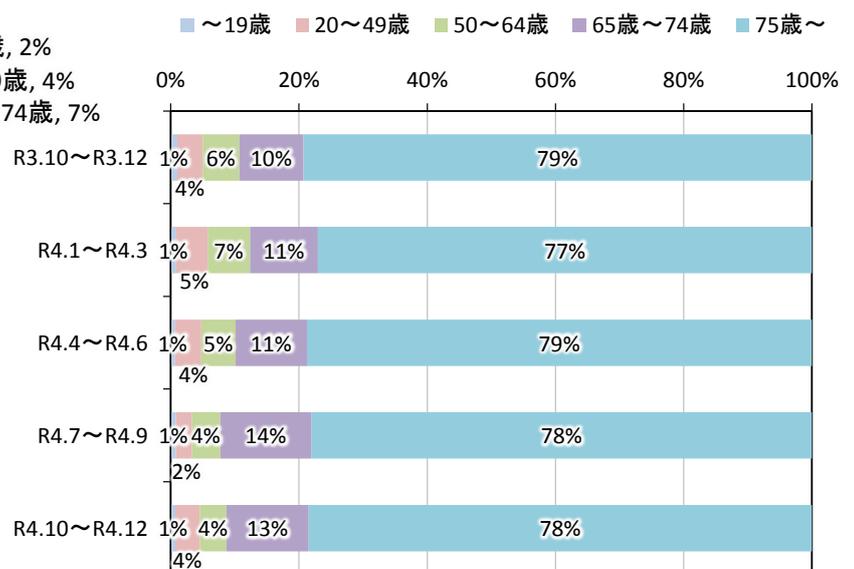


図-16.利用者の年代の推移

### 3.8 市民と観光客

- 令和4年の1年間における観光客の利用者数は1.3人/日、利用割合は2%にとどまっています。
- 四半期ごとの観光客の利用者数をみていると、R3.10~R3.12のみが1.2人/日と1.0人/日を超えています。その他の期間の観光客の利用者数は1.0人/日を下回っており、新型コロナの影響により観光客の利用が非常に少なくなっています。
- なお、令和元年10月の公共交通の再編前には、6人/日前後、再編直後はNバスの導入もあり2.2人/日前後に減少していますが、現状よりも多くの観光客の利用がありました。

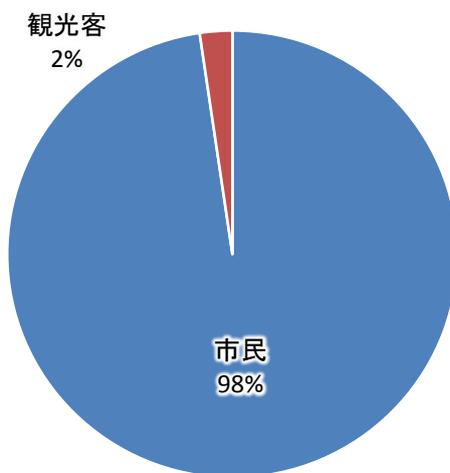


図-15.市民と観光客の構成比(R4.1~R4.12)

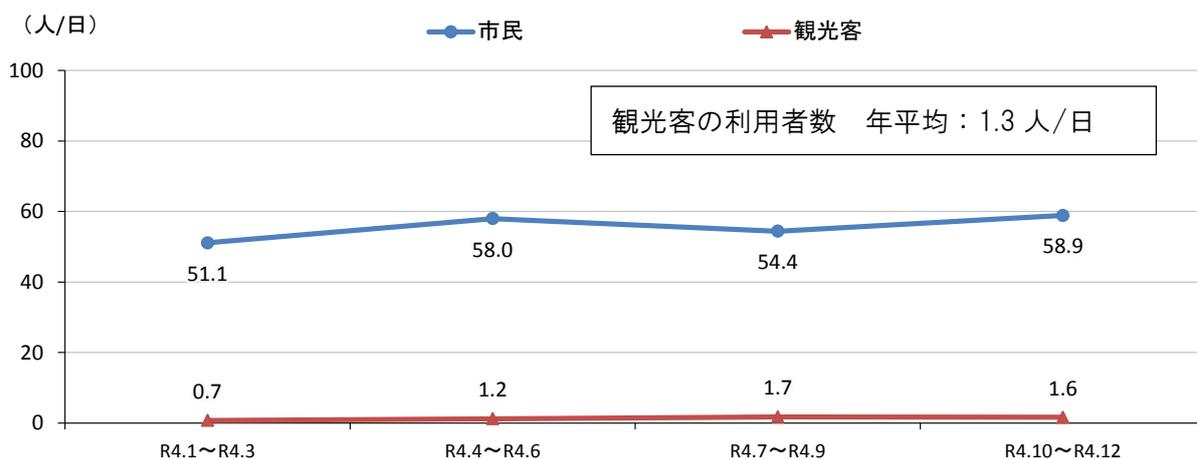


図-17.おでかけなんじいの市民と観光客の利用者数の推移

## 4 令和 4 年度の利用状況のまとめ

- Nバス及びおでかけなんじいともに、新型コロナウイルス感染症の流行状況に応じて、利用者数が増減しており、利用者数の変動が大きくなっています。
- 令和 4 年 3 月以降は、Nバスの利用者数は 350～400 人/日前後、おでかけなんじいの利用者数は 50～67 人/日前後と利用者数が安定してきています。
- Nバス、おでかけなんじいともに土曜日、日祝日の利用者数が平日に比べ、半数程度と少なく、休日の需要喚起又は、ニーズに応じた運行計画の見直しが課題としてあげられます。

表 4.令和 4 年度の利用状況のまとめ

項目	内容
利用者数	●Nバス及びおでかけなんじいの利用者数は、新型コロナウイルス感染症の流行状況によって大きく左右されており、令和 3 年度の流行期は 300 人/日前後、流行が落ち着き、行動制限のない令和 4 年度は 350～400 人/日前後と、最大で約 100 人/日の利用者数の差がみられる。
曜日別/時間帯別の利用状況	●Nバス、おでかけなんじいともに土曜日、日祝日の利用者数が平日の半分程度となっている。 ●おでかけなんじいは、平日の 10 時台をピークに午前、午後の利用が多く、夕方は利用者数が少なくなる。
性別の構成	●おでかけなんじい利用者の男女比は概ね 3：7 で大きな変動はみられない。
年齢構成	●「おでかけなんじい」の利用者の年齢構成は 75 歳以上が利用者の 79% を占める。
市民と観光客の利用	●「おでかけなんじい」の観光客の利用は、新型コロナウイルスの影響を受け、再編後の 2.2 人/日から 1.3 人/日へと利用者数が減少したままとなっている。